

「発達参観」保護者に十分な説明を！

問 来春実施の全年中児発達参観(発達障がい気づき事業)の模擬実施について、保護者に連絡がないのは問題。説明をすべきではないか。

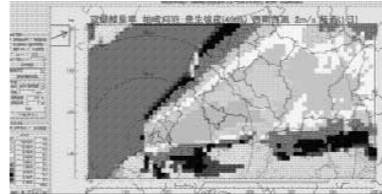
答 シミュレーションということで今後の説明を考えていたが、不安な保護者もいるという認識のもと、早急に検討したい。

問 発達参観の保護者への丁寧な説明は発達障がいの啓発そのものにもつながる。お便り一枚でのお知らせではなく、保育所等ですっきり説明会を開くべきではないか。

答 保護者への説明の件は詳細を詰めていないので検討したい。

原発事故と市民の安全

問 柏崎・刈羽原発から30キロ圏外の三条市は指針で避難受け入れが中心となるが、福島の実験では深刻な被曝の地域に相当する。放射能汚染シミュレーションもあるが、この対策にどう取り組んでいるのか。



「三条方面の汚染予測」 出典：環境総合研究所 柏崎・刈羽原発の福島第一と同レベル事故後24時間経過した空間線量率、西南西風2m/s

答 30キロ圏外への国から

職員給与について

問 市職員の給与引き下げを国から求められているが、いっそう判断する

答 県内自治体の動きを見て判断したい。

人口減少と三条市のまちづくりについて

問 市の人口減少の推移をどのように捉えているか。これまで策定している計画の中で影響を受けるものはあるか。

答 現行の総合計画策定時の予想を上回るスピードで減少している。まずまず人口減少が進んでいくと捉えている。将来人口推計を行った上で策定している計画は市の最上位計画である総合計画、地域福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険計画、都市計画マスタープラン、次世代育成支援行動計画である。ほとんどの計画が平成26年度を計画終期としている。その後新しいプラン

Table with population and household data for Sanjo City.

減少が続く三条市の人口

減免の影響はないのか

問 公共施設利用料金の減免が見直され5カ月が経過したが、利用状況と今後の利用の在り方はどうか。

答 減免の見直しを行って、それぞれ利用率が変化したということはない。利用の在り方については現実と懸け離れているという事例もあるので、実際に合わせて施設運用が必要と考え



地域に親しまれる栄寿荘

利用の多い栄体育館

幼児教育に差がないように

問 健康長寿を支える大きな要素は教育であると言われる。特に幼児期の教育は大切であり、どう考えるか。

答 幼稚園、保育所と公私立を問わず幼児教育の推進が必須であるという考えから三条市幼児教育推進プランを23年度に策定し、同じ方向性を持つ総合的かつ計画的に実施している。

思い切ってやめる勇気を

問 市長は就任後数多くの新規事業に取り組んできたが、財政状況が厳しくなる中で縮小や廃止も考えるべきではないか。

答 スクラップ・アンド・ビルドの姿勢で取り組みたい。

業者選択について

問 プロポーザル方式は、不透明との批判を免れない。

答 今後とも公平性や透明性を確保するべく努めたい。

原発事故リスクの代償を

問 柏崎・刈羽原発での万一の重大事故の際、本市は柏崎市や刈羽村と同じ被害を受けることは明らか。リスクの代償を東京電力に求めるべき。

答 リスクの代償を求め、近隣市町村とともに強く主張し行動したい。

消雪施設の管理について

問 高齢化により地元で消雪施設の管理ができなくなった場合の対策は。

答 管理に支障がでたら市に相談してほしい。

入札制度について

問 最近入札の不調が目立つ。予定価格

考えている。人命尊重を第一とし、住宅家屋への被害を抑えるといった中で、一部上流域からの水も一時抱えるといったような対応も必要になってきて、初めてその流域全体の水害対応がなされるものと考えている。事業主体の違いによって県などにも強く要望していきたい。

公民館の利用の現状と、今後の在り方について

問 利用したい市民が利用できているのか。

答 公民館全体では現時点では不足はないと捉えている。今後、公民館も含めた公共施設の在り方を検討していく。

大面川流域の豪雨災害対策の効果と課題について

問 大面川流域では7・13水害、7・29水害以降着実に豪雨災害対策が進められてきたにもかかわらず、今年7月末の豪雨では中流域の堤防で一部が越水、上流部では土砂崩れ、鉄砲水が発生した。これまでの災害対策の効果と課題点、さらに今年の豪雨を踏まえて今後取り組みなければならぬ対策は何か。上流部での砂防ダム整備など、鉄砲水に対し今後いかに対応していくのか。

答 7・13水害以降、さまざまな対策を講じた結果、1時間当たり最大雨量54ミリという降雨であったにもかかわらず、一部で冠水や溢水が発生したものの大規模な災害には至らなかったことから、今までの災害対策の取り組みには一定の効果があったものと

景観条例と電線の地中化について

問 良好な景観形成のために景観条例を制定すべきではないか。また、電線地中化を推進すべきではないか。

答 景観計画の策定、景観条例の制定について総合的に検討しなければならぬが、市民の義務や規制が生ずるため、十分な理解を得て合意形成を図らなければならないと考えている。また、電線地中化について、国道8



大面川の氾濫

公園の維持管理について

問 都市公園や児童遊園の清掃と除草はどのように行っているのか。

答 職員による週1回の巡回と維持管理を定期的に行っている。また、22団体のまち美化ボランティアによって清掃活動が行われている公園や児童遊園もある。除草作業は年に2回程度行っているが、昨今の気象状況により草丈の伸びの状況を鑑みて市による直営作業で可能な限り対応していきたい。



中心市街地の電線